

時を超えた歌声

主幹教諭 中村 昌子

2月20日(土)・22日(月)の2日間にわたって行われたおわかれ音楽会。保護者の皆様には、多数ご参加いただきましてありがとうございました。たくさんの拍手、笑顔、そして涙にあふれる素晴らしい2日間となりました。

下級生から6年生に向けてのメッセージがあふれる歌と合奏、6年生が長い時間をかけて、自分たちの思いを後輩たちに伝えたオペレッタ。本校が伝統としてずっと大切にしてきた子どもたちの心の交流は、まさに今年の6年生のオペレッタのタイトルにもあったように、「時を超えて」続いているものです。

個人的なことになってしまいますが、私は今年の6年生が1年生の時に担任をさせてもらいました。今、大泉小学校にいる子どもたちの中で、私が担任した最後の子どもたちです。それだけに、オペレッタで生き生きと、そして堂々と演じ、また力を合わせて作り上げている姿を見ることは、感無量の一言に尽きます。声をかけたいのですが、たぶん涙が止まらなくなりそうで、そっと遠くから喜びに浸っていました。

今年の6年生には特別の思いがあります。それは、彼らが1年生の時、もうすぐ2年生という2011年3月11日、東日本大震災があったからです。学校はその日を境にその後休校になり、卒業式も当時の6年生と教職員だけで行い、修了式も行わず、各自で修了証と菊の子通信等を取りに来てもらいました。保護者の方だけが取りにいらした家庭も多かったので、1年生としてみんなで顔を合わせたのは3月11日が最後となりました。4月からは通常に戻り、元気に2年生に進級しましたが、大好きだった6年生とのおわかれをさせてあげられなかったことがずっと心残りのまま新年度を迎えたことを覚えています。

1年生だった彼らも、大好きな6年生とおわかれする卒業式にも参加できず、一生懸命準備していた紙吹雪もきっと無駄になってしまったはずです。生活団での「6年生を送る会」ができたのがせめてもの救いでした。そのことをお伝えする学年通信41号を発行したのが、まさに2011年3月11日(金)。その手紙を渡して、その日は6年生の「菊の園感謝の会」のため、「早く帰るのよー!」と追い立てるように下校させてしまいました。地震発生時には皆家に帰り着いた時間帯だったと思いますが、一生忘れられない経験となったはずです。

それから5年、そのとき6年生だった子どもたちは高校2年生になって、今年の6年生のオペレッタを見にきてくれました。ペアの1年生だったあの子たちがどんなオペレッタを演じているのだろう、その思いにこえた歌声は、まさに時を超えてペアだった頃の1年生と6年生の絆をもう一度確かめるものになったはずです。あのとき思い切りありがとう、さようならをいえなかったペアの子どもたちの思いが、おわかれ音楽会という舞台の上で、「私たちの歌、どうですか」「すてきな歌声をありがとう」と花開いているように見えました。

今年の6年生のオペレッタのイメージは、一番始めに見たペアの6年生が上演した「君がいたから～空と海が会おうとき～」からスタートしているはずです。それほどペアが演じるオペレッタというものは1年生にとって大切なものなのです。そして、今年の1年生は「七色の橋～時を超えた友達～」を心の中に大切に抱いて、5年後素晴らしいオペレッタを上演してくれることでしょう。「時を超えた歌声」が大泉小学校の伝統としていつまでも続いていくことを願っています。